

# タイ洪水・円高



国内生産で300万台維持を貫く（愛知県豊田市のトヨタ高岡工場）

トヨタ

8月に営業利益450億円としていた12年3月期見通しを未定にせざるを得なかつたのは、タイ洪水の影響を精査しきれなかつたからだ。震災で寸断された調達網は回復。トヨタの生産台数は当初見込みより2カ月早く地域・車種で生産を正常化した。4月6月期は当初計画に対し76万台の減産となつたが、7月9月期は12万台分上積みし、下期から大増産で、タイの洪水が直撃した。

トヨタ副社長は苦しい胸の内を吐露する。

「震災からの生産挽回はほぼ計画通りに進展経験が生かされない形になってしまった」（小沢副社長）。トヨタの工場は

収益改善も想定よりも前倒して進んでいたのに、厳しい減益要因が新たに重なった。

小沢副社長は、「『ノーマル』70万台の歴史的な円高も収益を大きく圧迫する。トヨタは二つの難題に直面している。

「結果的には『震災のなつてしまつた』（小沢副社長）」。

トヨタの工場は

強まつて自動車業界の先行き不透明感が

12年3月期通期業績予想を撤回、未定とした。

東日本大震災後の減産を挽回する増産に入った矢先のタイの洪水はトヨタの世界各地の工場の減産に波及。

1ドリル70万台の歴史的な円高も収益を大きく圧迫する。トヨタは

二つの難題に直面している。

「結果的には『震災のなつてしまつた』